

「つゆひかり」の新芽硬化特性

[研究のねらい]

・静岡県育成の「つゆひかり」は鮮やかな水色と良好な香味に特徴のあるやや早生品種であり、近年導入面積が増加している。「つゆひかり」の特徴を活かした栽培方法を確立するため、新芽の生育および硬化特性を明らかにする。

[研究の成果]

- ・「つゆひかり」の開葉速度は「やぶきた」と比較して速い(図1)。
- ・「つゆひかり」の新芽は、下位葉がやや小型で、上位葉と下位葉の硬化度(打抜き抵抗値)の差が小さい。また、「つゆひかり」の3~5葉期では、同じ葉期の「やぶきた」よりも下位葉の硬化度が低く、硬化の進行程度も緩慢である(写真, 図2)。
- ・「つゆひかり」の新芽は、収量(摘芽重)の増加や生育ステージの進展に伴う全窒素含有率の低下速度が「やぶきた」よりも遅い(図3, 4)。
- ・以上のことから、「つゆひかり」は5葉期までに摘採を行えば、同等の生育ステージで摘採した「やぶきた」と比較して、高品質な茶の生産が可能である。



写真 5葉期の新芽
(左: つゆひかり, 右: やぶきた)

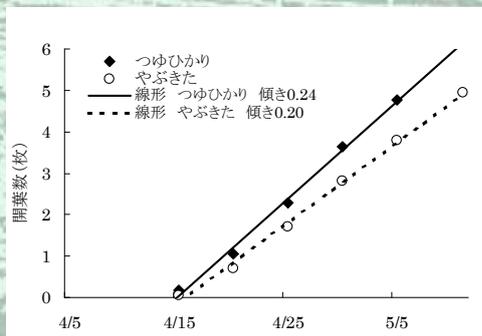


図1 開葉数の推移 (2011年)

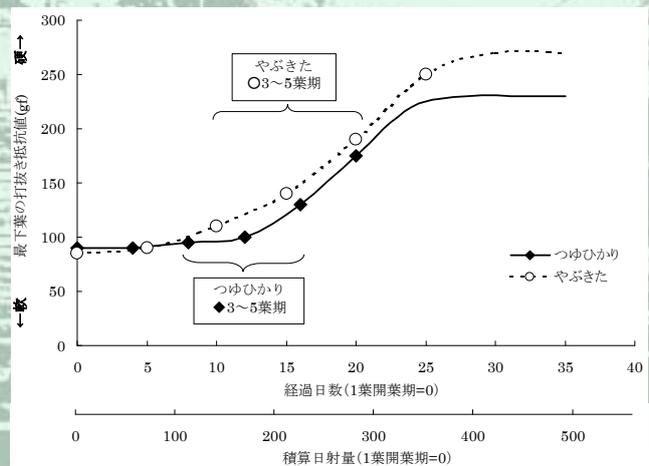


図2 つゆひかりの新芽硬化モデル

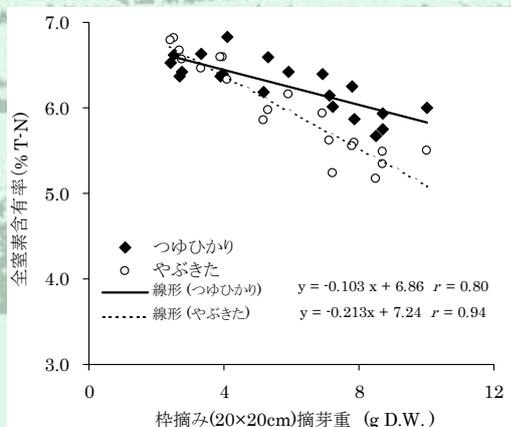


図3 摘芽重の増加に伴う全窒素含有率の経時変化 (2011年)

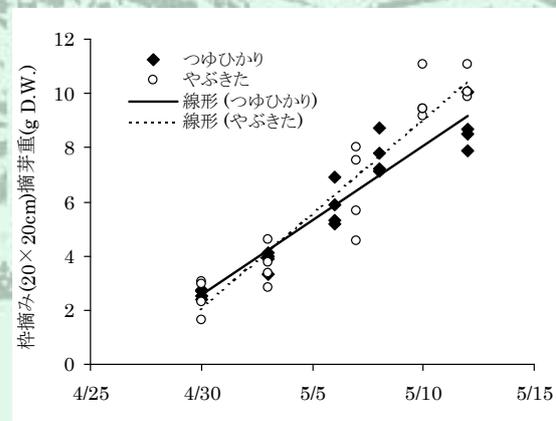


図4 摘採摘芽重の経時変化 (2011年)

問い合わせ先 栽培育種科 0548-27-2884
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp